

大隅地域感染症情報

2019年第9週報（2月25日～3月3日）
発行：大隅地域振興局保健福祉環境部

○全数把握疾患の報告数

	鹿屋保健所管内	志布志保健所管内
一類感染症	該当なし	該当なし
二類感染症	結核：2件	該当なし
三類感染症	該当なし	腸管出血性大腸菌感染症：1件
四類感染症	該当なし	該当なし
五類感染症	該当なし	該当なし

※速報値であり、後日修正になる可能性があります。

○定点把握疾患の報告数

- ・インフルエンザについて、県全体の警報は解除になりました。管内も、鹿屋保健所、志布志保健所共に警報の基準値を下回りました。
- ・鹿屋保健所管内の感染性胃腸炎について、減少傾向であり、警報の基準値も下回りました。

疾病	警報レベル 開始/終息 基準値	注意報 基準値	鹿屋保健所管内推移				志布志保健所管内推移				大隅全体	県全体
			6週	7週	8週	9週	6週	7週	8週	9週	9週	8週
インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	44.38	19.75	10.63	8.50	34.00	12.20	10.20	4.40	6.92	6.41
RSウイルス感染症	-	-	0.40	0.60	0.40	0.60	0.00	0.00	0.00	1.00	0.75	0.43
咽頭結膜熱	3.00/1.00	-	1.20	1.60	1.40	1.60	0.00	0.00	0.00	1.00	1.38	0.93
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	-	2.20	2.00	2.00	1.00	0.67	2.33	1.67	1.67	1.25	2.56
感染性胃腸炎	20.00/12.00	-	15.20	12.20	12.00	8.60	8.67	4.67	3.67	3.33	6.63	7.72
水痘	2.00/1.00	1.00	1.80	2.20	0.40	0.60	0.33	1.67	1.00	0.67	0.63	0.37
手足口病	5.00/2.00	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.13	0.24
伝染性紅斑	2.00/1.00	-	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
突発性発疹	-	-	0.60	0.40	0.40	0.40	0.00	0.00	0.67	0.33	0.38	0.61
ヘルパンギーナ	6.00/2.00	-	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.67	0.38	0.02
流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	0.20	0.20	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
急性出血性結膜熱	1.00/0.10	-	0.00	0.00	0.00	0.00						0.14
流行性角結膜炎	8.00/4.00	-	1.00	3.00	1.00	1.00						2
細菌性髄膜炎	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
無菌性髄膜炎	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
クラミジア肺炎	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-
インフルエンザ入院患者(人)	-	-	4	0	1	0	1	0	0	0	-	

警報基準値以上

注意報基準値以上

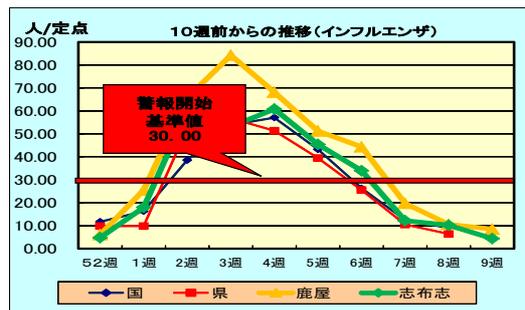
○インフルエンザについて

【 警報開始基準値 30.0, 警報終息基準値 10.0, 注意報基準値 10.0 】

インフルエンザの発生状況は、
鹿屋保健所管内からは68名（定点当たり報告 8.50）の報告がありました。

志布志保健所管内からは22名（定点当たり報告 4.40）の報告がありました。

年齢別では、10～14歳が最多でした。



※第9週は鹿屋・志布志のみ掲載

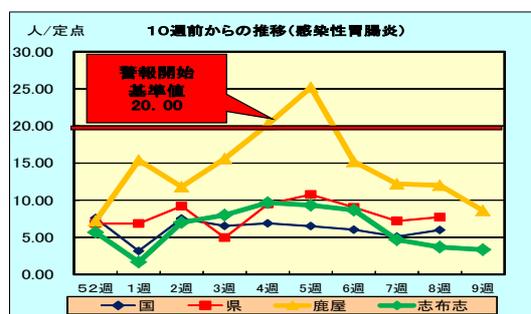
○感染性胃腸炎について

【 警報開始基準値 20.0, 警報終息基準値 12.0 】

感染性胃腸炎の発生状況は、
鹿屋保健所管内からは43名（定点当たり報告 8.60）の報告がありました。

志布志保健所管内からは10名（定点当たり報告数 3.33）の報告がありました。

年齢別では、10～14歳が最多でした。



※第9週は鹿屋・志布志のみ掲載

腸管出血性大腸菌感染症の予防について

【腸管出血性大腸菌感染症とは？】

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素という毒素を出す大腸菌による感染症です。
無症状や軽症で終わる場合もありますが、主に水様の下痢、激しい腹痛、血便、嘔吐や発熱等の症状が現れます。中には溶血性尿毒症症候群をひきおこし、小児や高齢者では重症となる場合もあります。

【腸管出血性大腸菌感染症を防ぐには？】

腸管出血性大腸菌感染症は、菌が口から入ることで感染します。
予防のためには、汚染された食べ物や水、手などを介して、菌が口の中に入らないようにする事が大切です。

①食品の保存や調理について

- ・食材はよく洗いましょう
- ・肉などは生で食べることは控え、しっかり加熱（75℃、1分以上）しましょう
- ・調理した食品は早めに食べましょう

②飲料水の衛生管理について

- ・井戸水などの生水は、必ず煮沸してから飲みましょう

③手洗いについて

- ・帰宅時、調理前、調理中、食事前には手洗いを十分にしましょう
- とくに用後は念入りに行いましょう

④その他

- ・保育施設等においては、集団発生を防ぐためにもおむつ交換時の手洗いや、園児に対する手洗い指導の徹底が重要です

